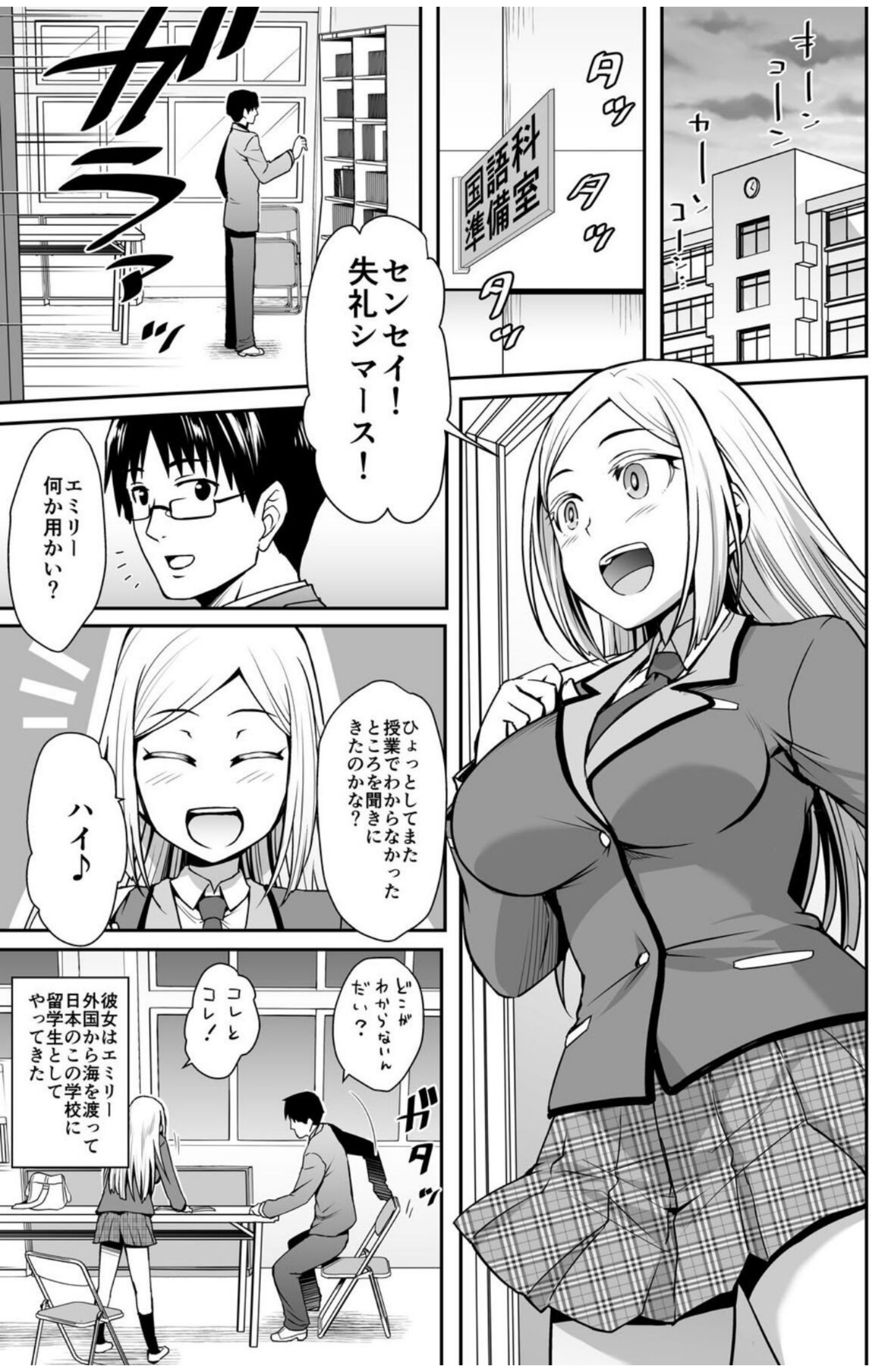
極上金髪留学生と

Hな国際交流シちゃいました。

ごくじょうきんぱつりゅうがくせいと
えっちなこくさいこうりゅうしちゃいました。

PRESENTED BY
ミサオ


キーンコーンカーンコーン…
国語準備室
ガラッ
センセイ！失礼シマース！
エミリー何か用かい？
ひょっとしてまた授業でわからなかったところを聞きにきたのかな？
ハイ♪
どこがわからないんだい？
コレとコレ！
ガタッ
彼女はエミリー外国から海を渡って日本のこの学校に留学生としてやってきた

彼女の故郷はとても貧しいため将来は日本での就職を考えているらしい

日本語も決して上手ではなく知り合いもいない国に一人でやってきて最初は不安でいっぱいだったに違いない

それでも彼女はそんな事情や不安をまったく表には出さなかった

それどころか明るく人懐っこい性格ですぐにクラスメイトとも打ち解け今ではすっかり人気者だ

しかし彼女にはやるべきことが山積みで寝る間も惜しんで勉強とバイトに毎日が大忙し

つ

少しでも力になってやりたいが僕にできるのは勉強を教えることくらいだ

年頃の女の子なんだしもっと息抜きをさせてやりたいが……

センセイ アリガト！ 全部わかったヨ

それにしても毎日教わりに来るなんて本当に勉強熱心だな

アハハ ニホンのコト勉強するためにきましたカラ

エミリーみたいに真面目な生徒がいると教えがいがあるよ

しかし肩に力を入れ過ぎても疲れが溜まってしまう

せっかく日本に来たんだ少しは遊んでもいいと思うぞ？

アー……

ガタッ

モウこんな時間！バイトに遅れちゃう

ワタシもう行くネ！

あっああ

ドンッ

暗くなってきたから気を付けるんだぞ！

ウン！マタネー♪

毎日放課後も残って勉強それが終わればすぐアルバイト…

遊ぶことに使えるための金も時間も無い、か……

ギッ

学生の本分は勉強…とはいえ…

少しでもあの娘が息抜きできる機会を作ってあげたいな

ラーん

授業でレクリエーションをやるのはどうだろう
体を動かしてスッキリするものが彼女の好みだろうか
吉岡先生
お電話が入ってますよ
あっハイ！

お電話代わりました桜崎学園の吉岡です
ハイそうです
ハイ……えっ？

COSMETICS
Cat`s Eye

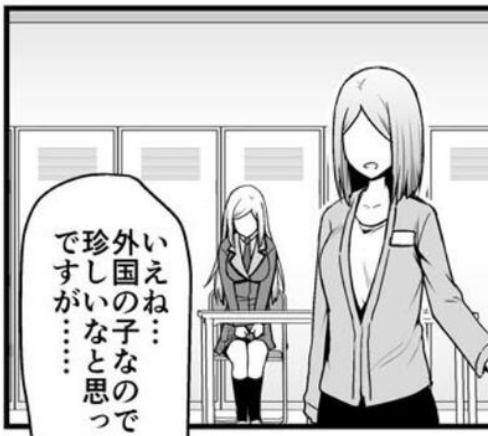
なんですって……!?

一体何があったんだ…
万引きなんて……！
センセイ…
ゴメンナサイ……

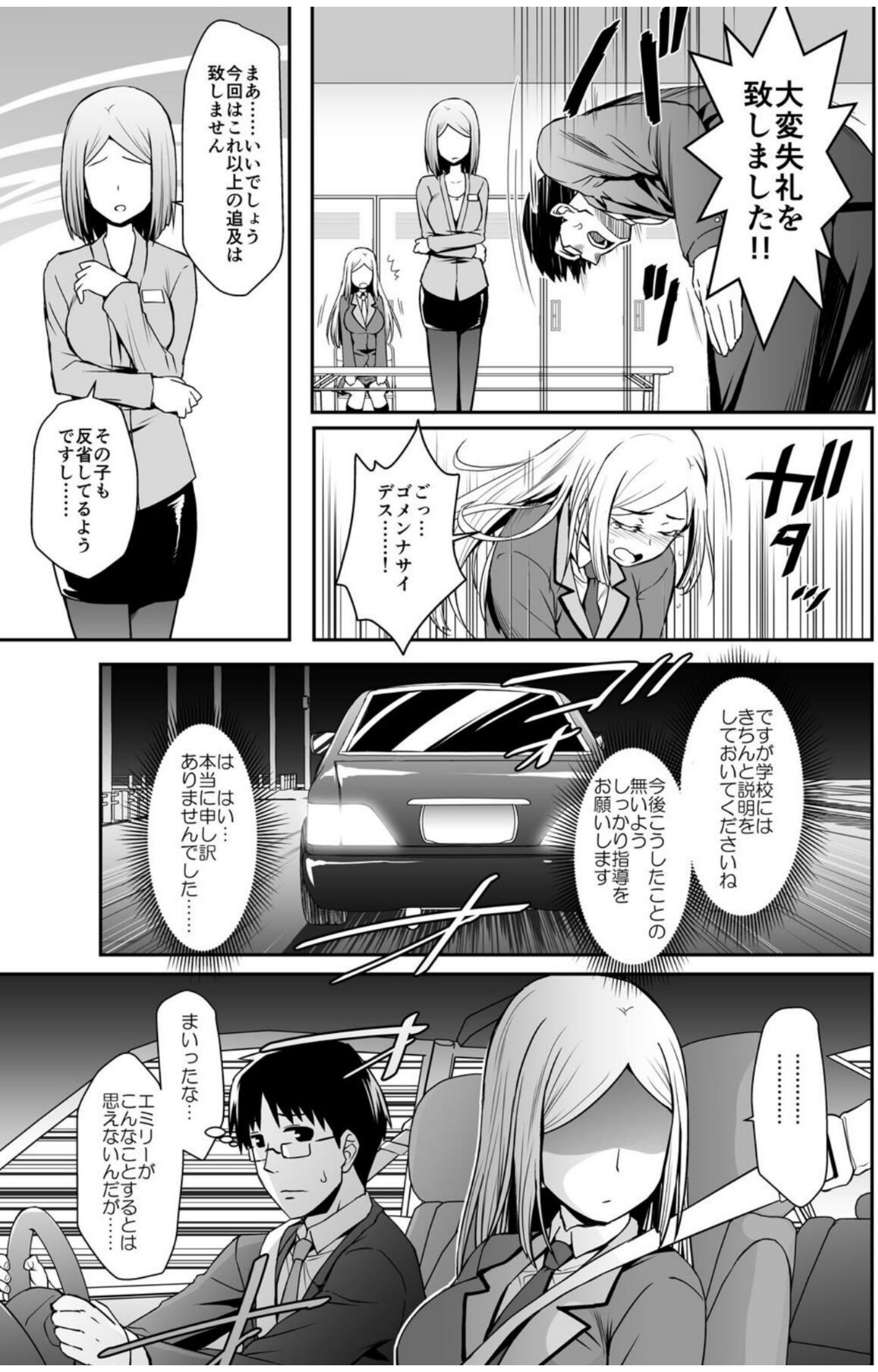
カルチャー
!!

……
エミリー……！

そうしたら
その子…
ウチの商品を
ポケットに入れ始めて……

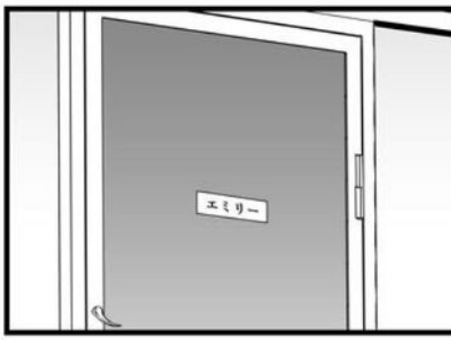

いえね…
外国の子なので
珍しいなと思ったん
ですが……

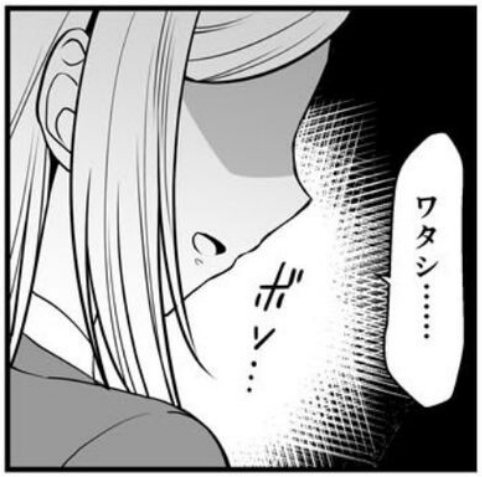
どうも様子が変だったので
遠くで見ていたんですよ
Konbou


大変失礼を致しました!!
バ
ッ
ガ
タ
ッ
ごっ…ゴメンナサイデス……!
まあ……いいでしょう今回はこれ以上の追及は致しません
その子も反省してるようですし……
ですが学校にはきちんと説明をしておいてくださいね
今後こうしたことの無いようしっかり指導をお願いします
はい…本当に申し訳ありませんでした……
……
まいったな…エミリーがこんなことするとは思えないんだが……

少しは落ち着いたか？
ハイ……

桜崎学園 学生寮


エミリー


ワタシ……
ボソ…

ゆっくりでいいからどうしてこうなったか…説明してくれるか？
……！

でもどうしてもオシャレがしてみたくて…それで……

クラスのミンナ…オシャレしてとってもキレイで…ウラヤましかったデス
オケショウの道具スゴク高くて…オカネ全然足りなかった

…そうだったのか

センセイにまでメイワクかけちゃうなんて……
ポロポロッ
ゴメン…ナサイ…！もう…ゼッタイしません……！
どすっ
センセイ…ワタシこれからどうなるノ……？
ヒック…
……
学校に報告する決まりになっている…おそらく一週間の謹慎処分だろうな
キンシン……？
この寮から出ちゃいけないってことだ
でも…アルバイト行かなきゃいけナイ……
…アルバイトも辞めさせられる可能性が高い
そ　そんな…！困りマス……！
ガタッ
!?

バイトできないと…生活も仕送りも出来なくなりマス…！

お願いシマスセンセイ…学校には言わないで……！

っ……！

ぎゅっ

ぎゅっ♥

だっダメだ！報告だけはしなきゃならない

その後のことはこれからまた考えよう……

ぷっ

ドキドキ

！

……

ぐっ…

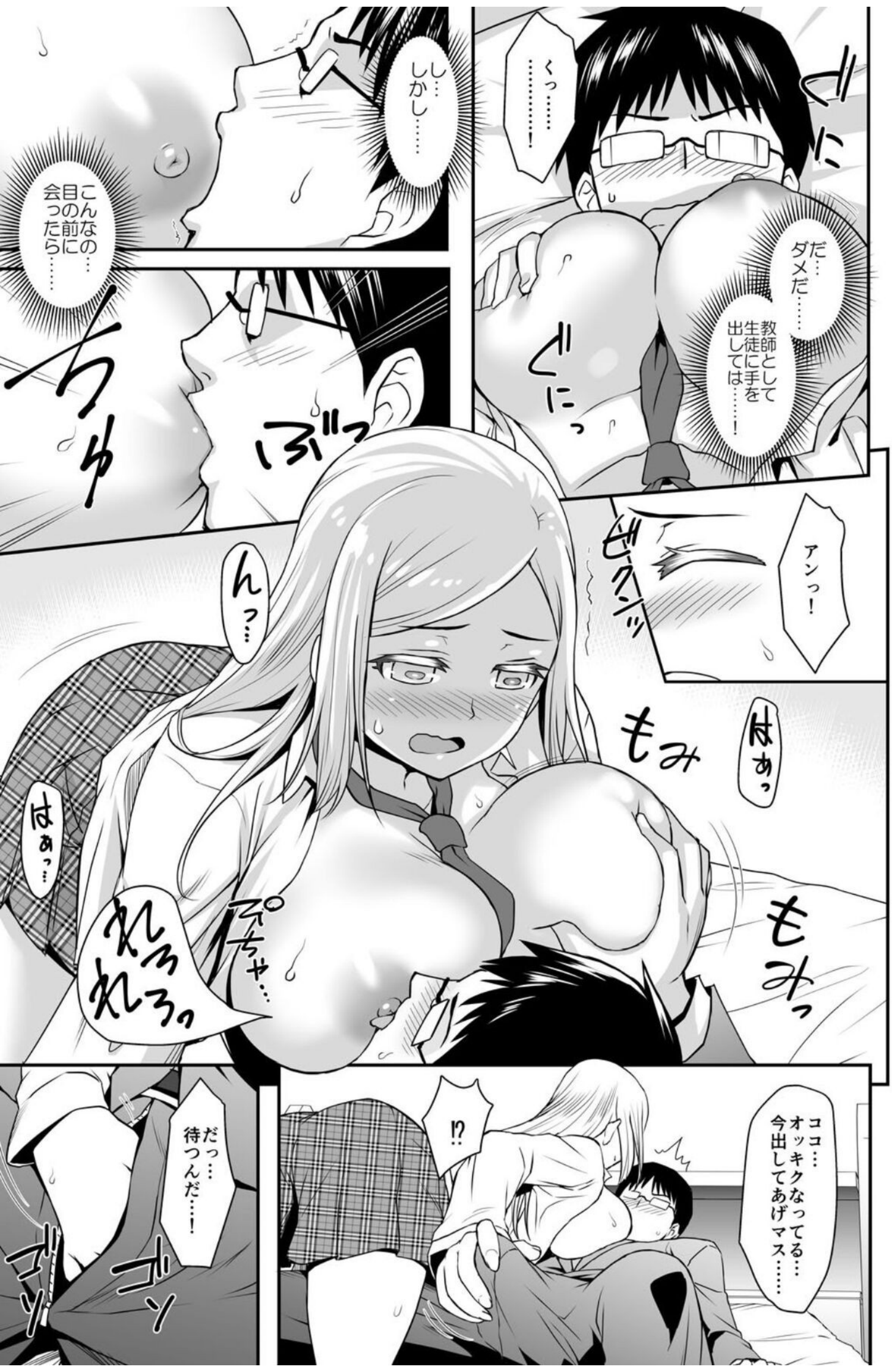
わっ！

ガイッ

バサッ

エミリー……!?
ギシッ
なっ…何を……!
シッ……!
ずっ
今ココをミンナに見られタラ…センセイも怒られマス……
ダカラ静かニ……
センセイ…今日のコトナイショにしてくれタラ……
ドキ
ドキ
ドキ
ワタシ…サービスしマス……

ばっ…バカなことを！やめなさい！
センセイ…サッキ……
ワタシのオッパイ…意識してマシタ……
……！
ワ…
ワタシで良かったラ……
好きにシテ…クダサイ……
!!
ホラ…触ってミテ……
むにっ♡
むにゅ
むにゅっ♡
センセイは大きいオッパイスキ……？
ううっ…


だ…ダメだ……教師として生徒に手を出しては……！
ぐに
ぐにっ
くっ……！
し…しかし……
こんなの…目の前に会ったら……
ちゅ
ぶっ
アンっ！
ビクンッ
んっ…
もみ
はぁっ
はぁっ…
もみっ
れろれろの
ぴちゃ…
ココ…オッキクなってる…今出してあげマス……
!?
だっ…待つんだ…！
ゴソ
ゴソ

うあっ…
スゴイ…
センセイの…大キイ……
男のヒトのココって……
こんなにカタくなるんデスネ……
ビクッ
ぐぐっ…
はぁっ
センセイ…ワタシのオッパイでコウフンしてくれたんデスネ……
んっ…
シュッ
シュッ
シュッ
くちゅっ
じゅるっ
じゅるるっ
ちゅぷぷっ
モット気持ちイイサービスしマス……
はぁっ…
うわっ…
ぷるんっ
ぬぷっ…
ちゅ…
ああっ……!

じゅぷっ
じゅぷっ
えっ…エミリー!?
そんなに激しくしたら…!
ぴちゃ…
っ…!
……!
エミリーも…濡れてる……?
もしかしてエミリーも興奮してる……?
ゼクッ
!?
ゼクッ
ゼクッ
ゼクッ
ひゃああっダメえっ!
れてるれてるよ
ちゅ…

モウッ…ワタシがサービスするって言ってるノニ……！

ぐにっ

ううっ！お前こんなことまで……！

むにっ

むぎゅうっ♡

ん……

とろぉ…

はあっ

にゃるっ

ふうっ

ちゅぷぷ…

ふっ…

ワタシも…アンマリ知らないケド……

にちゃっ

ぬちゃ

センセイにマンゾクして貰えるようにガンバルヨ……！

ぬっちゃ

にちゃっ

ぬちゃっ♡

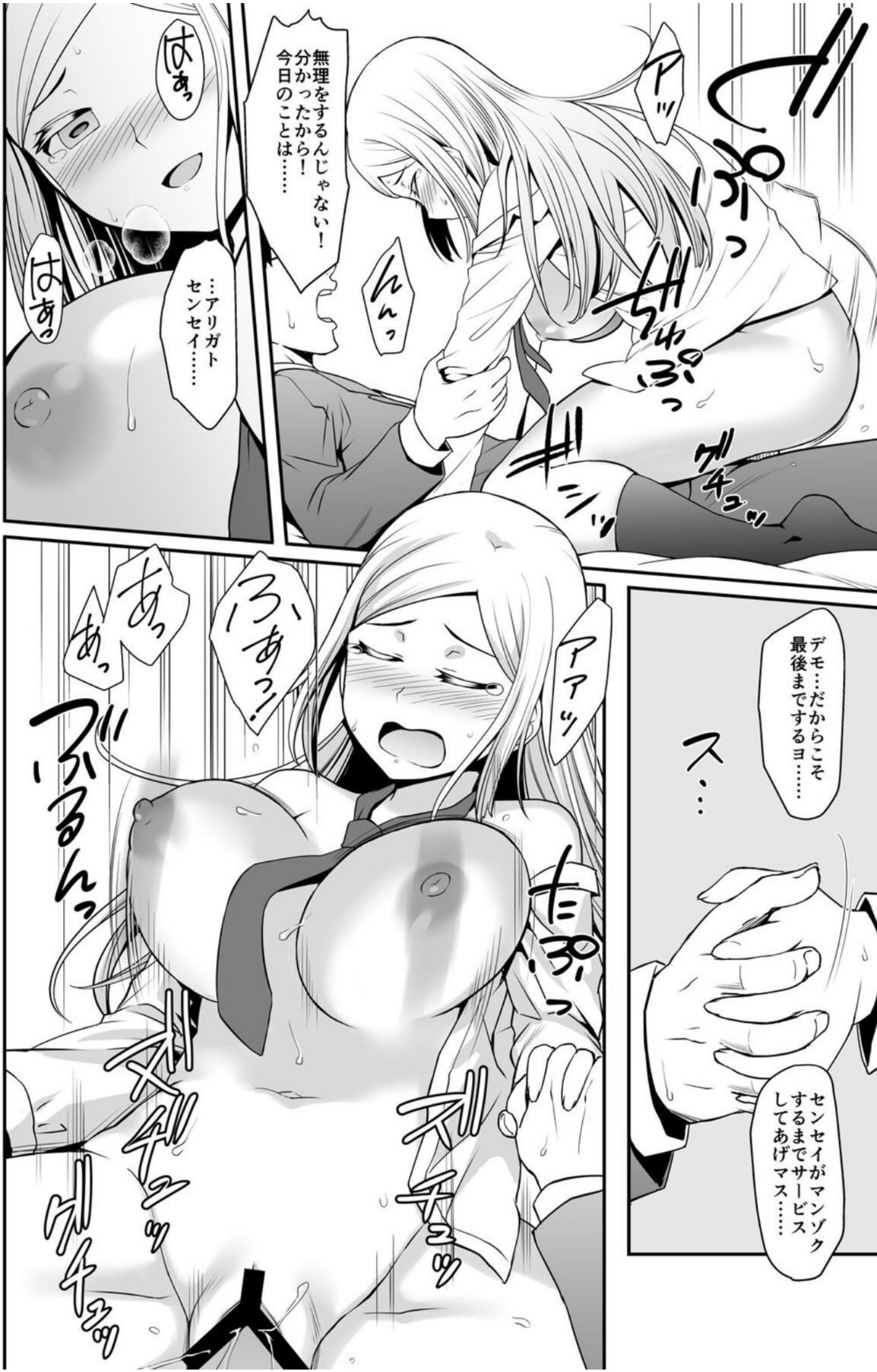
ズリュッ

ズリュ

ふっ…
じゅるるっ
ぢゅるる…
ふうっ
んんっ
ぢゅぷっ
ぢゅぷっ
ぬぽっ
ふっ
ふうっ
やっ…やばい…もう……！
んっ
ぢゅぷっ
ぢゅぷっ
ごく…
はあ
はあっ
スゥ…
出るッ!!
ビクンッ
ビュッ
ビュクッ

センセイ
まだ大きいママ……
コッチならマンゾク
してくれマスカ……？
くぱぁ……
ちゅぷ…
ぐぐっ
よすんだ…
もう
これ以上はっ……！
ビクッ
んっ
ぷしゃぁっ
すごいあぁっ

〜〜〜っ……！
もうやめなさい！分かったから……！
みちっ…
ゴメンネセンセイ…少しだけ待って……
はーっ
はぁっ
ぬぷぷ…
うぅっ
ぐぷっ
あっ
ぐちゃっ
はっ
うぅっ
んんっ
んんっ


アッ
ぷっ
ぷっ
んんっ
ニッ
ゲチュッ
無理をするんじゃない！
分かったから！
今日のことは……
はあっ
はあっ
…アリガトセンセイ……
デモ…だからこそ最後までするヨ……
ス…
センセイがマンゾクするまでサービスしてあげマス……
アアッ
あっ
あっ
あっ
ぷるんっ
ぷっ
ゲチュッ
ゲチュッ
ゲチュッ
ゲチュッ

せっ…センセイ……
ワタシのカラダ…気持チイイ……？
ああっ…気持ちいいよ……！
ホ…ホント……？
センセイが喜んでクレテウレシイ……♥
アアッ！
エミリーのが僕に絡みついて…最高だ……！

っ…エミリー…！
もうっ……！

イキそう…？

センセイ
またイキソウですか…？

あっ
あぁっ
スゴイッ!!

こんなにタクサン…
センセイはとっても
ゲンキですね……

れろ。。

むく…
センセイどうです
マンゾクできまシタ……？
ハァ
ハァ…
ガシッ
ぷるっ…
エッ!?
ぷるっ
ぷるっ
ビクンッ
アッ
アッ!!
ぷるっ…
アッ…
セン…セイ……？
ごめんエミリー……！
俺…まだ満足
できないっ……！
グイッ
ズチュッ
ドチュッ
パンパンパンパン
アッ
アッ
アッ!

ふあっ
ブルンッ
イイヨ…センセイッ……！
気が済むまでシテっ……！
ずちゅっ
ぐちゅっ
パンッ
パンッ
パンッ
アンッ
ッ……！
ぐっ…
ゲイッ
グリグリッ
ンァアッ
ズプッ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ズプッ
ンッ
ッ！
ッ！
ギシッ
フッ
フゥッ
ギシッ

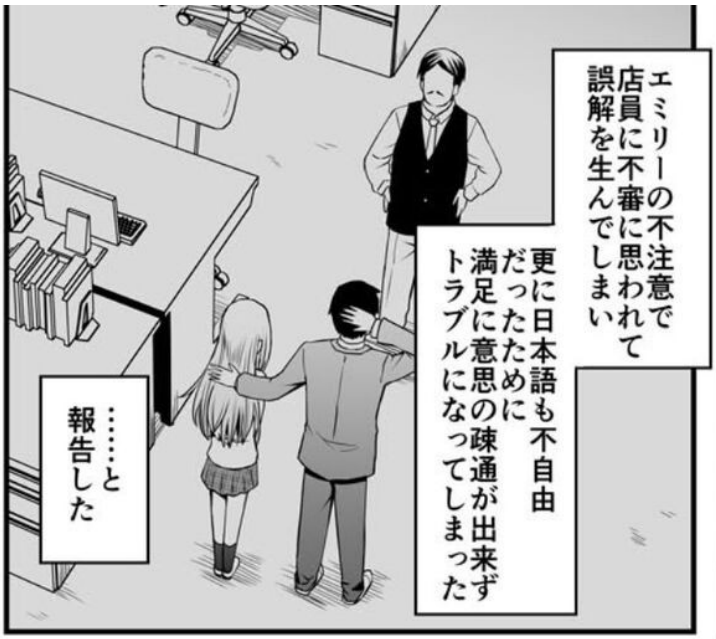
ハアッ
ハッ
アッ
アアッ
ずっちゅ
どぷっ
ずっちゅ
あっ
アアアッ!
センセイ
メエッ…♡
ぎゅっ
オチュッ
オチュッ
もみっ♡
もみっ
ぎゅっ
ひあっ
アアしゅッ♡

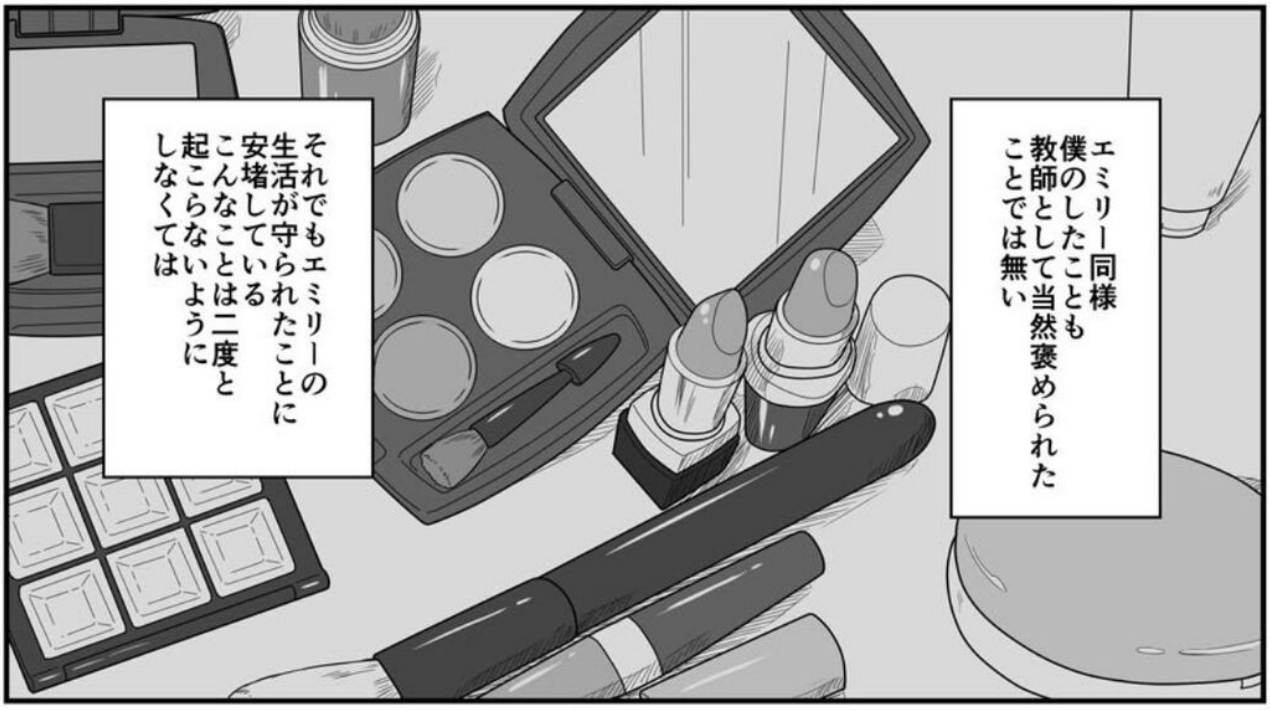
ハアッ
ちゅうっ
ずちゅっ
ぐぐぐッ
ぐぐッ
ぷぷッ
ぷぷッ
ぷぷ

エミリーっ……！
ビクンッ！
はぁっ……はぁっ……！
ごめん……！
優しく……できないっ……！
ぶるんっ
ぶぷっ
ぶぷっ
ぶぷっ
ズッ
ズッ
ギュッ
ギシッ
ちゅっ
れろぉっ
んはぁっ
アッ
はぎしっ！
ずちゅっ！
ずちゅっ！
アッ！
アッ！
ぐちゅっ
ずぷっ
ずぷんっ
ギシッ
アッ！
センセイ！
センセイ！
っ……また
出そうだっ……！
エミリー……
中に出して
いいか……!?
アッ！
ビクンッ
アンッ
ハァッ
ぐぷっ
ぐぷっ
ぐぷっ
ぐぷっ
ずちゅっ
ぐちゅっ
ハイっ……クダサイ……！
ワタシをセンセイの
モノにっ……
してクダサイ……！

ビクンッ
ビクッ
ビクッ
ビク

—翌日
学校には

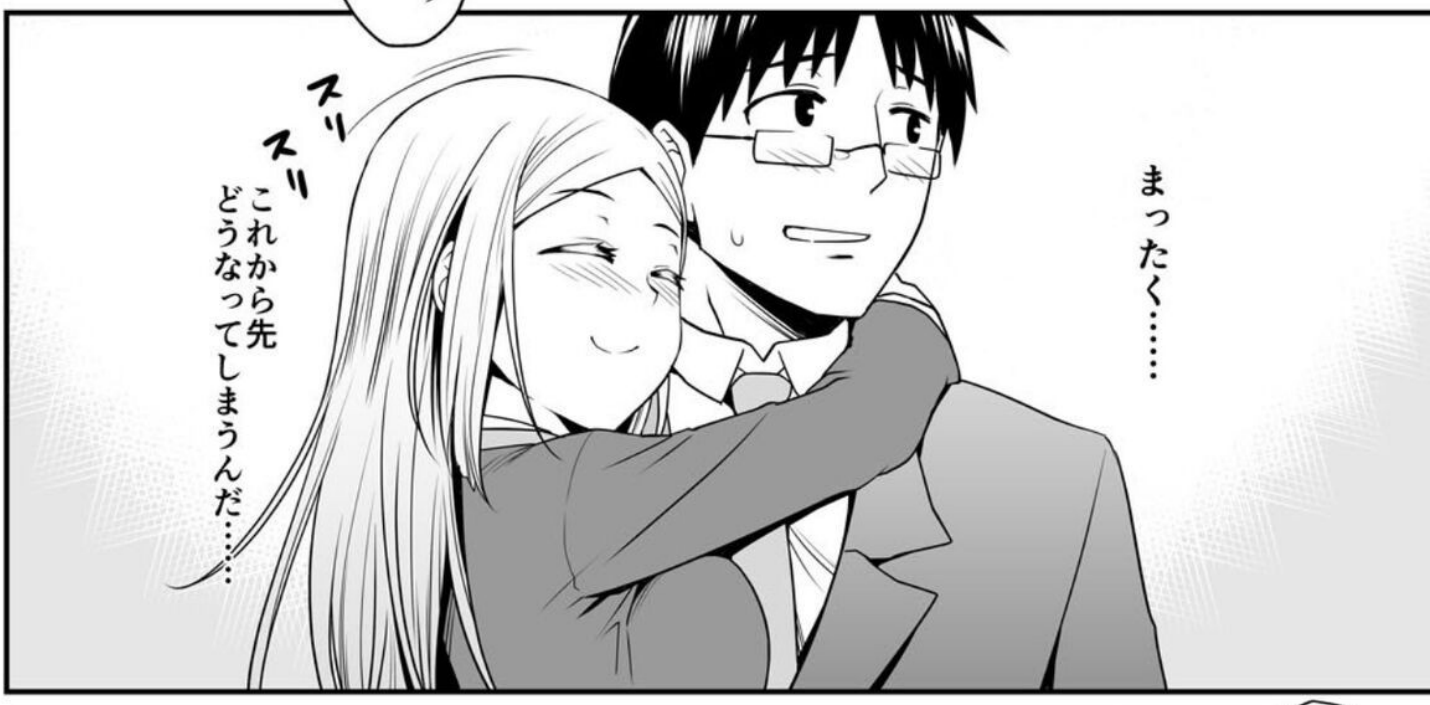

エミリーの不注意で
店員に不審に思われて
誤解を生んでしまい
更に日本語も不自由
だったために
満足に意思の疏通が出来ず
トラブルになってしまった
……と
報告した


エミリー同様
僕のしたことも
教師として当然褒められた
ことでは無い
それでもエミリーの
生活が守られたことに
安堵している
こんなことは二度と
起こらないように
しなくては

……と
まぁ…
そういうわけ
なんだが……
エミリー

ハイ？

…そろそろ降りてくれないか
ヘリっ
ぎゅっ
ナニリ
こんなところ見られたら今度こそ本当にまずいんだが……
デモこの準備室ナラワタシ以外ダレもコナイ！
なるほどそうだが…


まったく……
スリスリ
これから先どうなってしまうんだ……

じゃあセンセイ今日もタップリサービスしマス❤
えっ!? こ…ここで!?
イイカライイカラ❤
……まあ良しとするか…

タイトル：極上金髪留学生と
Hな国際交流シちゃいました。

著者：ミサオ

発行：一彩出版